



Rotary
Club of
Miyazaki Academy

2022-2023 年度 国際ロータリー第 2730 地区 宮崎県中部グループ

宮崎アカデミーロータリークラブ 会報

第 114 回例会 2023 年 6 月 27 日

●例会場 清武文化会館研修室

会長 薬王寺文宏 副会長 成合 修 幹事 安田文彦

■会長の時間 薬王寺文宏 会長



ロータリー年度も年度末を迎え、私が会長として例会を行うのも今回が最後となります。

一年間、大変お世話になりました。

本日はその感謝の意を込めて、食事付の例会とさせていただきます。

食事を摂りながら結構ですので、少しお耳をお貸しください。

思い起こせば約一年前の 7 月 12 日の第 1 回目にて私の会長としての任期が始まりました。『ロータリーを知り、ロータリーで活躍しよう！』を年間テーマとして取り組みました。一年という時間はあっという間に過ぎていき、思っていたような成果が上げられなかったのは大変残念です。任期 1 年の難しさを痛感しました。できればもう 1 年留年させてもらってやらせてもらえないだろうか…なんて思えるほど、心残りです。

私どもクラブは会歴も浅く、これから伸びしろも非常に大きいクラブです。

今年度は直前会長として、次期明石会長をしっかりとサポートしていきたいと思えます。

一年間ありがとうございました。

■幹事報告 安田文彦 幹事



みなさん、こんにちは。本日の幹事報告は 5 点ございます。

1 IM の出席のお礼と記録 DVD のご案内が来ております。記録 DVD ご覧になりたい方は事務局までご連絡をお願いいたします。

2 第 8 回日台ロータリー親善会議台北大会のご案内が来ております。参加ご希望の方は事務局までご連絡をお願いいたします。

3 穎娃ロータリークラブから例会上報告のご連絡が来ておりますので、ご報告いたします。

4 2023 年 6 月のロータリーレートは、1 ドル=140 円です。寄付は、日本事務局に着金した月の RI レートが適用されます。月末にお振込みされる方はご注意ください。よろしくお願いいたします。

5 本年度の寄付についてご報告いたします。ロータリー財団が 39,431 円、米山奨学金が 47,182 円でした。ご協力ありがとうございました。

本日が今年度の最終例会となります。1 年間ありがとうございました。

■各会員からの報告

○アフガニスタン避難民のこの一年間



Hello everyone,

My name is Baktash Mohammadi. I graduated from Miyazaki University's Faculty of Agriculture about 7 years ago.

After graduation, I returned to my country Afghanistan where I worked as a faculty member at a national university. When the political situation in the country changed, I contacted Miyazaki University for help, and thanks to their efforts I was able to come back to Japan.

I came here last year in November with my wife and my 5 years old daughter. However, exactly two months ago today, my second daughter was born here in Miyazaki and now we are a family of four.

I currently work as a researcher at the Laboratory of applied entomology at Miyazaki University. Concerning my future life in Japan, Miyazaki University and Rotary Club helped me find a more stable job at Agurimochinaga

Company based in Miyakonojo city for which I am very grateful to everyone who put an effort.

Over the past 6 months that I have been living in Miyazaki, I have been receiving various donations in the form of mainly rice and other things from the Rotary Club and other organizations. I would like to thank everyone for that.

About life in Japan, I should say that I personally do not have any major difficulties. Thanks to a little Japanese that I can speak, I have been able to find some friends with whom I can spend my leisure time and/or ask for help or advice. However, my wife and daughter feel alone and homesick sometimes. I have been trying my best to help them feel happy and learn the Japanese language so that they too will be able to enjoy life in Japan.

That is pretty much all about what I would like to share with you. Thank you again for your generous and continuous support.

○ニシタチ子ども食堂

公共イメージ委員会 竹井倫世 委員



2021年12月に1回目を開催
この1年半において、みやざきアカデ
ミーロータリークラブ様から
総額73,547円のご寄付を頂きました。

この場をお借りし、心から感謝申し上げます。頂いたご寄付は、主に絵本や知育玩具、知的学習用ゲームの購入などに使用させて頂いた。

当初は2名の子供から始まったニシタチ子ども食堂だが、今では毎回定員を大幅に超え

50名程度集まるようになった。届けたい子供達へ届くようになっている。

新型コロナウイルスが5類に下がって以降は、子供達とより実践的な食育活動が出来るように毎回企画を実施している。食を大切に作る心を育てていきたい。

今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

○クラブ管理委員会 出席担当 瀧伸一 委員



第114回例会出席について、次の通り報告いたします。

- ・開催日：2023年6月27日火曜日
- ・会員数：40名
- ・ホーム出席：24名

- ・オンライン出席：1名
- ・出席者合計：25名（暫定出席率62.50%）

○クラブ管理委員会プログラム 担当 辻清委員長



- ・第3回親睦ゴルフコンペの開催報告
2023.6.25（日）宮崎国際ゴルフ倶楽部 4名参加
- ・第115回例会について
2023.7.11（火）12:00～地域デザイン棟

■卓話 水光正仁 会員

「宮崎アカデミーロータリークラブ

創立5周年を祝って」



薬王寺会長の最後の例会での卓話となりました。宮崎大学の水光です。宮崎アカデミーRCのチャーターメンバーで初代及び2代の会長を務めさせて頂きました。まずは、薬王寺会長そして役員・理事をされた皆様、1年間本当にお疲れ様でした。今日の卓話のメインテーマは、先日亡くなられた広島東洋カープの投手だった北別府学氏の死因のヒト成人T細胞白血病になります。

まずは、自己紹介からします。私は、1950年、都城市の生まれで、家は歴史的に古く、そこで質実剛健の厳しい教育を受けて参りました。場所は、桜の名所の母智丘公園の近くです。地元の小・中学校そして都城西高等学校を卒業して、大学は九州大学農学部に入りました。何故、この専門を選んだかといいますと、小学校3年生の時、母智丘公園の横に、国立の農業試験場が出来たことからです。今は、九州・沖縄農業研究センターとっています。この

研究員の方は、京都大学や北海道大学及び九州大学等の出身者が多く、当時、田舎育ちの私にとっては、しゃべる言葉が標準語で、着ているものも立派で、子供さん達の優秀なこと等で宇宙人かと思いました。自分たちもひょっとしたら同じような能力があるのではないかと競争心に燃え、意識しながら学校に通っていました。大学受験の時、当時は工学部ブームでしたが、都城西高等学校は新設校でしたので新任の先生が多く、理科の先生は多くが理学部出身の方でした。同級生の何人かは、理科の先生の影響を受け理学部の道を選びました。私は、農業試験場のことが気になり、そこの研究員の方に話を聞きに行きました。農学部出身者ですから、農学部の魅力を語られ、その中で「自然を相手にしながら、日本・世界の食料・環境そして生命の勉強が出来る」という言葉に魅了され、農学部を選びました。特に、農芸化学科を勧められましたので、迷わずその道を選びました。大学に入り、農業試験場の研究員の方の説明通りのわくわく・ドキドキの教育を受け、大学院に進学することを決めました。大学院の修士課程の2年生の時、教職の理科免許を持っていましたので宮崎県の高校の教員になろうと思い、教員採用試験を受けに帰ろうと指導教授の教授室にしばらく休みますと言いに行きました。ところが、その教授から今こんなに面白い研究をしているから、博士課程に進学して研究を続けなさいと説得されました。それは、強い説得で、覚悟を決め教授の前で教員採用試験の受験票を破り、博士課程に進学することにしました。それが、私の最大の人生の岐路でした。

博士課程での研究生生活は充実しており、自分で研究計画を立て、教授から自由にやりなさいといわれ、思い切りやりました。その時、私の研究が遺伝子やタンパク質などの生命の起源に関する最先端領域に入っていました。研究手法が分からず、九州大学の医学部を始め、留学から帰ってきた先生のところに相談に行きました。しかし、私が求めていた答えではなく、これは海外に留学して勉強する必要があると思いました。それが、宮崎大学に赴任してからのモチベーションの源でした。宮崎大学農学部助手の採用人事ですが、原則公募ですが、専門性、研究業績及び人格等を基に、全国の大学院修了者の候補者から人数を絞り、最後は一本釣りのやり方でした。

人事を進める教授が、学位論文をまとめている時に私の研究室に來られ、いろいろな質問をされました。今から考えると口頭試問だったと思います。幸運にも、適任者ということで、宮崎大学農学部の選考委員会・教授会にかけられ、満票で採用になったと報告を受けました。提出した書類の中で、「教育」に関するの抱負の記載欄があり、そこに九州大学学友会主催の330チームが参加したソフトボール大会で優勝し、その際ピッチャーを務め、チームワークの重要性を書きました。宮崎大学に赴任後、いろいろな先生のところに挨拶に行きましたが、行った先々で研究業績よりもソフトボールのことが評価されていることが分かりました。研究実績だけではアピールしないということを学びました。

赴任後、主任教授からもう一つ重要なことを言わ

年度	旧宮崎大学	宮崎医科大学	宮崎県産業振興機構	宮崎大学長	宮崎県知事
	学長：藤原宏志	学長：松尾寿之	2000(H12)・4 財団法人宮崎県産業支援財団		
2003(H15)・10	新宮崎大学			住吉昭信	安藤忠恕
2003(H15)・10	宮崎県地域結集型共同研究事業採択			住吉昭信	安藤忠恕
2004(H16)・1	宮崎県地域結集型共同研究事業開始			住吉昭信	安藤忠恕
2004(H16)・4	国立大学法人宮崎大学			住吉昭信	
2008(H20)・12	宮崎県地域結集型共同研究事業終了			住吉昭信	東国原英夫
2012(H24)・4					
	結集型研究推進室廃止				
2014(H26)・5	みやざきフードリサーチコンソーシアム設置			菅沼龍夫	河野俊嗣
2015(H27)・11	一般社団法人食の安全分析センター設置			池ノ上克	河野俊嗣
2017(H29)・11	食の機能性解析拠点形成			池ノ上克	河野俊嗣

れました。それは、「ここで教育・研究を頑張って下さい」ではなく、「皆さんと仲良くして下さい」ということでした。この言葉は、その後の海外での研究生活及び宮崎大学での教育・研究さらに管理運営の際に大いに役に立ちました。

いろいろありましたが、教員として42年間の宮崎大学勤務を終え、1昨年(2021年)9月末に退職しました。名誉教授の称号を頂き、かつ文科省科学技術振興機構の次世代研究者支援プロジェクトに採択されましたので、その事業統括としてこの事業を進めているところです。この事業は、大学院博士課程の学生を次世代研究者として採用し、給与と研究費を支給し、研究に専念して、将来は日本の科学技術の進展に貢献してもらおうという研究人材育成プロジェクトです。

宮崎県の研究人材育成について、最も大きな事業

がありましたのでこのことをご紹介します。北別府学投手の死因に係ることです。平成16年1月にスタートした「宮崎県地域結集型共同研究」事業です。この事業で、初めて県内の産官学が連携し基盤技術創出に向け、雇用した若手研究者15人を含むおよそ100人の研究者・技術者が結集しました。5年間の総事業費が約13億円でありました。その若者達も大学のポジションやいろいろな研究職に就き、その時のスキルを活用しています。

南九州特有の風土病である成人T細胞白血病(ATL)及びC型肝炎ウイルスによる肝細胞がんという、共にウイルス感染を背景に発症するがんの発症機構・進展因子を解明し、食の機能性を活用した予防法及び治療法の開発を目指したプロジェクトです。事業統括に元県工業会副会長の故中島勝美氏、研究統括に元宮崎大学医学部長の河南洋教授を立て、水光は、食の関心のテーマの研究リーダーとなり研究を推進しました。

何といってもこの大事業を立ち上げた時のきっかけが最高の思い出となっています。平成14年、旧宮崎大学と宮崎医科大学との統合が現実のものとなっている時のことでありました。宮崎医科大学の松尾寿之学長は、平成14年度21世紀COEプログラム「生理活性ペプチドと生体システムの制御」に採択され、日本の研究のトップ30に選ばれました。一方、旧宮崎大学には特筆すべき実績が無く、対等な大学統合に焦りを感じていた時でありました。時の藤原宏志学長に呼ばれ、旧宮崎大学は地域と連携して大型プロジェクトを立ち上げて下さいとの命令が下ったのです。水光は、その藤原学長の学長補佐でありました。その時、宮崎県からは永山英也氏と富山幸子氏が送られてきました。旧宮崎大学は水光が対応し、宮崎県と旧宮崎大学の農学部、工学部そして宮崎医科大学の研究者と県内企業の技術者を集め、特に若手の研究者を中心として連日連夜の議論を重ね、100数十ページの申請書が出来、地域結集型共同研究事業を立ち上げることに成功しました。毎年4県ほどしか採択されない高い競争率の中で、ヒアリングに臨みました。東京の工学系の審査員から嫌みたっぷりの質問が浴びせられ、肩を落として宮崎に帰ってきたことを覚えています。「このような研究は、宮崎でやらなくても東京でやれる研究ではないですか」

と。第1回目の申請は、FS地域との判定でした。FS(Feasibility Study)とは、プロジェクトの実現可能性を事前に調査・検討することで、悪い評価ではなかったのです。俄然元気が出てきて、再申請に向けて結集しました。その結果、1年後再挑戦の機会が来て、意地悪ヒアリングにもめげず、私たちの目指す方向性と地域活性化を熱心にアピールしました。いつもヒアリングでの説明担当は水光と永山氏でありました。やはり、同じ質問が来ました。宮崎でやらなくてもと言う質問で、問題なく答えることが出来ました。それは、南九州にATL(成人T細胞白血病)の患者さんが多く、都会にはそれほど無いことと、地域が困っていることを強烈にアピールしました。その結果は、1番手で採択されたとのことで、旧宮崎大学はやっと宮崎医科大学との対等合併の切符をもらったと感じました。なお、北別府学投手の死因の成人T細胞白血病の研究は、メンバーであった森下教授により今も続いており、その治療法の糸口が見えてきました。

そして両大学の統合、つぎに国立大学の法人化を迎えました。新生宮崎大学は地域に貢献する大学として旗幟を鮮明にして、今日を迎えています。

このように、地域を含めた研究人材育成に長いこと取り組み、今、日本の低迷している科学技術に貢献する人材育成にエネルギーを費やしているところです。

宮崎アカデミーロータリークラブの益々の発展を祈念して卓話を終わります。ありがとうございました。

会報発行:公共イメージ委員会
委員長 大地寛行
宮崎アカデミーロータリークラブ
事務局

〒880-0806 宮崎市広島1丁目3-3 秀豊ビル4F
TEL 0985-22-6767 FAX 0985-22-9170